

令和5年度 第3回八尾市自殺対策計画審議会 議事概要

- 1 日時：令和5年12月22日（金） 午後1時30分～午後3時30分
- 2 場所：八尾市保健所2階 大会議室
- 3 出席委員
委員17名中10名出席（うち1名は用務のため途中退席）
- 4 議事
 - 1）八尾市自殺対策推進計画（第2次）素案について
 - ・資料1に沿って事務局より説明
 - 2）その他

◆会長

第1章自殺対策推進計画の策定について、委員よりご意見や加筆のご提案はあるか。

◆全委員

意見なし。

◆会長

続いて、第2章「本市の自殺の現状と課題」について、18ページの下から2行目より「職員の意識の醸成を図る研修も強化して継続しています」と記載しているが、職員の意識の醸成を図る研修のなかには、第一次の推進計画で行ってきたゲートキーパー研修は含まれているのか。ゲートキーパー研修を含み、意識の醸成を図る研修が強化されているという理解でよいか。

◆事務局

当該部分にはゲートキーパー研修は含んでいない。

◆会長

自殺対策の視点から、意識の醸成を図る研修のなかにゲートキーパー研修の要素が組み込まれていればよいと思い、発言させていただいた。

次に 19 ページについて、④自殺未遂者支援の対象者は、例えば精神保健福祉法の警察官通報の対象にならなかった、あるいはその対象となったが措置診察の対象とならなかった方と考えてよいか。もしくは別の対象になるのかを教えてください。

◆事務局

対象者は警察官通報の有無ではなく、自殺未遂があった方全員を対象としている。

◆会長

警察によって保護された方のなかには、自傷他害の恐れで警察官通報になる場合があるが、自傷で保護されても通報等がない場合もある。今後事業を実施する上で、④と警察官通報との関係をわかりやすく説明できるように整理したほうがよいと思い、ご意見をお聞きした。計画本文の加筆は不要である。

続いて 26 ページについて、集計方法に関しては八尾市の傾向みるためというよりは、八尾市の自殺予防に役立つという趣旨で、「自殺予防に役立つ重要な情報であると考えられるため、クロス集計を用いて分析を行いました」のような文章がよいのではないかと感じたため、本文の調整をご検討いただきたい。

続いて 46 ページについては、「低くなっています」という表現が複数箇所に使用されているが、例えば「この前よりは低くなった」というように比較した対象があるように読むことができてしまう。そのため、比較対象の結果ではなく、今回の結果がこうであったという事実を示すことができる文章がよいのではないかと思う箇所がいくつかあった。

同じく 46 ページに「『自殺を考えたことがある』と回答した割合は、若い年齢層ほど高くなる傾向がみられています」とあるが、「関係機関との連携・ネットワークについて」というタイトルに少し沿わない感じがするため、タイトルを変更してみてもどうかと感じた。

続いて 47 ページの「住民同士が“関心を持つが監視しない”程度に緩やかな距離を持つて見守るとされている」という文章については、他の文章がすべて〈ですます調〉のため、「…見守ると言われています」という文章がよいのではないかと思った。

次に 48 ページ④について、前回調査では「わからない」という選択肢がなかったため、「減少していることから認識の変化をうかがえる」とまで述べてよいだろうかと思になった。⑤については、「環境等の変化による影響も多く受けている」という文章がどういう意味なのか教えていただきたい。文章が少しわかりづらいと感じるため、検討したほうがよいのかもしれない。⑥については、「このような生きることへの促進要因…」とあるが、「このような」がどのようなことなのか、この文章ではわかりづらいと感じたため、整理したほうが読む人にとってわかりやすいのではないかと感じた。

以上、いずれもわずかな文言の修正で済むところではあるが、気が付いたため発言させていただいた。

委員よりお気づきのことがあればお願いしたい。

◆その他市長が適当と認める者

28 ページ②について、スコアが低いグループは、高いグループに比べて 10 ポイント以上の差がみられるとあるが、低いグループは 46.0%で、高いグループが 15.8%のため、30 ポイント以上の間違いではないか。

◆事務局

実際には 30 ポイント近くの差となるが、10 ポイント以上の差がある部分については、他の箇所と統一して「10 ポイント以上の差がみられる」という表現を用いている。ご指摘いただいた当該部分については、実際の値を示すほうがよいのか改めて検討したいと思う。

◆会長

次に第 3 章について、お気づきのことがあればお願いしたい。

なければ、今年度から委員になった方がいらっしゃれば、八尾市自殺対策推進キャラクターの「きくにゃん」はご存知だったかお聞きしたい。

◆住民代表者

存じ上げませんでした。

◆会長

続いて 55 ページの第 4 章「基本的施策に基づく取組」について、基本施策(1)にある現状の 2 点目に「わからない」が高齢者で強くみられ、3 点目に若年層では誤答が多いとあるが、続けて 2 行読むと頭がもつれるような感じがするため、「自殺に関する認識が『わからない』と回答する方は年齢が高いほど多く、誤答は若い年齢層ほど多い」というように、1 行にまとめてもいいのではないかと感じた。

次に 57 ページの基本施策(2)にある現状の 5 点目について、自殺を考えたときに相談しなかった 74.4%の人が、相談しなかった理由として「相談しても解決できないと思うから」と回答した割合が 62.1%ということがわかるように、文章を調整したほうが読みやすいと感じた。次に 6 点目については、先ほどと同じように「低くなっています」という表現が使用されている。高くなっている、低くなっているという表現は、変化を表しているように感じるため、もし極端に低いという事実があるのであれば、その通りの文章や形としてもよいと感じた。

次に今回のなかで私が最も重要な点と思ったのが 59 ページであり、基本施策(3)現状の 7 点目にある「一定数あります」という表現である。20%や 24%は一定数というより、もう少し高い感じもする。一定数という表現は使わずに、「20%あり、前回調査でも 24.3%でした」と事実を書いた方がよいのではないか。そして、参考資料 2 の 87 ページを併せてご覧いただきたい。自死遺族の方々が、遺族は様々な困難に直面するという話をされている

ように、多いのはメンタルヘルスの問題、あるいは心理的なケアの必要性のような問題かもしれないが、生活費の確保、借金の返済、身体的健康の悪化、育児・子育て、教育費、それから自死についての社会の理解、自死についての家族や親族の理解といった様々な問題がある。これらは精神的健康状態の悪化に比べると少ないが、こんなにも多様な問題を経験されているという書き方にした方が良いのではないかと感じ、修正をしていただきたいと思った。

続いて、前回の計画がつなげる支援室に結びつき、相談件数も増えているということであるため、63 ページの基本施策(5) 取り組み①庁内におけるネットワークの充実のなかに、つなげる支援室についての記載がなくて良いのか教えて頂きたい。

◆住民代表者

60 ページの③子ども・若者に対する支援についてお聞きしたい。

私の意見になるが、いじめや不登校等、学校の子どもに関しての課題がとても多く、これらは自殺につながるが多々あると思っている。昨日のニュースでは、札幌市で小学校からのいじめが中学校になっても続き、最終的には自殺されたと報道されていた。ご父兄の相談が担任の先生だけに留まってしまい、他の先生方に共有されず、校長先生もご存知なかったとのことだった。先生方も、様々な講習を密に受けられていると思うが、最低でも学校のなかで共有してほしいと感じる。1人の先生に伝えても、校長先生まで上がっていなかった経験は私自身にもある。知らなかったでは済まないことがこれからも多々出てくるかと思う。先生方は働き方改革やクラブ活動等で忙しく、大変だとは思いますが、学校に子どもを預ける以上、学校体制のなかでは子どもを見守ってほしいという思いが親御さんにはあると思う。そのため、いじめや不登校の問題は担任の先生で留まらず、学校全体、校長先生まで話が上がり、共有してもらい、問題解決につながってほしいと思う。

◆会長

教育に関係する課の方がいれば、今のご提案についてご意見をお願いしたい。

◆人権教育課

各学校においては、校内のいじめ対策委員会というものがあり、いじめだと認知する段階から校長をはじめとし、校内で共有されるような体制のもと、各学校で取り組みを進めている。併せて、令和元年度から積極的に認知していくということで、軽微なものからしっかりといじめとして認知をして、取り組みを進めている。また、不登校についても同様に、担任だけに留まることがないよう、校内で「チーム学校」として多職種連携を入れながら、進めていこうという体制づくりを行っている。

◆会長

今のご説明は③にある1つ目の◆に含まれているというお考えということでよいか。

◆事務局

その通りです。

◆会長

他にご意見があればお願いしたい。

◆その他市長が適当と認める者

今週、地域共生推進課のつなげる支援室の研修会に参加した。地域包括は高齢者の支援だが、つなげる支援室ができてから高齢者だけでなく、障がい等、様々な部署や機関が縦割りではなく、横に連携するようになったことから、会長がおっしゃるように庁内ネットワークの充実につなげる支援室のことを入れたらよいと思う。

◆会長

ここまでのご意見について、事務局からコメントや追加があればお願いしたい。

◆事務局

先ほど会長からお話いただいた内容を踏まえ、改めて修正すべきところを修正していきたいと思う。また、63ページの取り組み①庁内におけるネットワークの充実について、2つ目の◆につなげる支援室や重層的支援の部分を含めているが、今委員からご意見をいただいて、つなげる支援室がやはり大きな取り組みの柱になってくるものだと感じたため、項目を付け加える、もしくは表現を改めて考えたいと思う。

◆会長

第5章は計画の推進体制、進行管理、目標であり、計画の目標は3ヶ年平均の自殺死亡率の減少を掲げている。進行管理については、計画審議会と推進会議、庁内の会議、行政外の現場を含む会議とが連携し合い、そのなかでPDCAを回すと書かれている。

本日は素案をまとめるという重要な会議であるため、委員の皆様方にお一人ずつご発言していただこうと思う。今までこの計画の審議会に参加してのご感想や、今のお気持ち、そしてこの計画のなかで書かれていることで特にこんなところが大事だと思っている等のご意見を一言ずつお願いしたい。

◆医療関係者

20歳以下の自殺者が増えているという話が出ていたかと思うが、薬剤師としてオーバー

ドーズが非常に問題となっていると感じている。大阪府薬剤師会からも、一つの薬を複数の店で買ってくるということがないように啓発し、示していかなければいけないという話が出ている。私たちは学校薬剤師という活動も行っており、学校でお薬教室を開催している。これまではお薬の正しい飲み方についての指導が主だったが、最近では学校側からオーバードーズについて話してほしいという要望がとても多く出てきている。インターネットでもオーバードーズについて簡単に出てくるが、きちんとした知識を学生さん、生徒さんに持っていていただきたいため、これからも薬剤師としてそのような活動を行っていきたいと思っている。

◆会長

今のご意見は、基本施策(1)の自殺やうつ病等の精神疾患に対する正しい知識の推進や、心と体の健康づくりについての啓発のなかで、オーバードーズといった視点もきちんと持つことが大事ではないかという理解でよいか。

◆医療関係者

その通りです。

◆住民代表者

生活困窮者の相談窓口や、日常生活自立支援事業という判断能力が不十分な方の金銭管理を行っている。そこで相談職員がじかに利用者や相談者と接することを考えたときに、前回の審議会でもお伝えしたが、支援者の心のケアが大事だと思っている。

平成23年よりゲートキーパー研修をされているが、研修の内容や今後内容をどのようにしていくのかという考え方、どういった感想が寄せられているのか等について、お聞かせいただきたい。相談員が主任や管理職になっていく中で、階層別のそういった研修が今後必要なのではないかと感じた。

◆会長

今のお話はこの計画のなかで、基本施策(2)の取り組み③支援者への支援(ケア)と一番関係が深いと思う。委員のご発言で事務局から何か追加等はあるか。

◆事務局

まずゲートキーパー養成講座の内容として、座学にて八尾市の自殺の状況などをお伝えするとともに、ロールプレイも同時に行っている。感想としてはロールプレイを通じて理解することができたと良い回答も多くいただいている。ゲートキーパーとして講座を受けることで、責任や内容の重さを感じる部分もあり、そのあたりも踏まえて今後の研修については、57 ページの取り組み①市職員関係者、関係機関の様々な職種を対象とした養成講座と

は別に、58 ページの②市民や地域団体を対象とした、①の職員向けと比べて、平易な内容の養成講座を行っていきたいと考えている。

◆会長

実際に事業を行っていくなかで様々な気づきがあると思われるため、それを反映して今後成長させていくということかと思う。

◆住民代表者

若い人の自殺も増えているというが、私はやはり高齢者のほうが孤独であるように感じる。不景気のような負の状況が重なると、人に相談せずに黙ってしまい、アンケート結果に書かれているように相談しても意味がないといったことになる。私は自治振興委員会の委員をしており、あとになって「あっ」と気づく状態では遅いため、目の届く範囲で全体を見ることができるようになりたい。おかしいなと思うときはそのような素振りが前々から見えると皆言うため、その辺りの気づきをもう少し住民側で何かできればと思う。窓口を広げて相談に来てくださいといった従来の方法ではまだまだ難しいと思うため、住民、自治振興委員会にもアピールしていただき、受け皿をもう少し広げていただければ、少しは変わるのではないかと考えている。「あれ？ちょっとおかしいな」という変化を誰かが発すること、多少は変わるのではないかとと思う。

◆会長

今のお話は 60 ページ④女性に対する支援や⑤男性に対する支援、そして 56 ページ③生きがいがづくりへの支援と関連する部分かと思い聞かせていただいた。

60 ページ④女性に対する支援では、家庭問題等女性を取り巻く問題とあり、⑤男性に対する支援では、経済・生活問題等年代の特性に応じたと記載がある。近年、男性と女性でそれぞれライフサイクルを含めて様々なことが移り変わっているため、男性は経済生活、女性は家庭問題と言い切るのは、やや定型的かもしれない。④、⑤については、文言を検討したほうがよいかと思う。先ほどの委員のご発言について、事務局よりご説明をお願いしたい。

◆事務局

住民同士の様々な場面での気づきは大切だと思うため、交流を広げる中で周りの方々が気づく機会を設けることは重要だと思う。基本施策(1)や(2)の中でも取り組むとともに、64 ページにもあるように、地域におけるネットワークの充実という取り組みにおいて、自治振興委員会、民生委員児童委員協議会等の地域団体の方々とも連携を取り、進めていきたいと考えている。

◆会長

近年の男性、女性といった性別に捉われないジェンダーの視点も必要だと思うため、性別に偏らない書き方で文章を構成するというのも一つの方法かと思う。そのあたりは事務局で検討いただきたい。

◆住民代表者

私は民生児童委員だが、そのなかでも子どもを対象とした主任児童委員副会長を務めており、ゲートキーパー養成講座で勉強したことは、今後の活動に生かしていきたいと思っている。

現場では子どもに関する問題が数多く出てきている。少しでも悲しい出来事がなくなるように、八尾市では28名の主任児童委員を各小学校区に1人ずつ配置し、1ヶ月に1回は部会を開き、情報交換の場を設けている。

今後も想像できないような様々なことが起こると思うが、子どもが少しでも幸せになることを一番に、頑張っていきたいと思っている。

◆市民公募委員

私は市民ではあるが、八尾市が主催するつどいの広場事業の活動も行っている。つどいの広場では、0歳から3歳くらいのお子さんを在宅で子育てしている保護者の方と一緒に集まり交流している。最近では出産直後から産後1ヶ月くらいのお母さんが、日中誰とも話すことがなく、誰か大人の人と話したいと切羽詰まった様子で来られたことがあった。

生後1ヶ月というと、早くから外に連れ出すのはどうなのかといった周りの目が気になる時期ではあるが、「大人としゃべりたい」「会話することを忘れてしまいそうになる」と、赤ちゃんのことがかわいいと思っても、たまらず来られるお母さんはいる。日中赤ちゃんを2人きりで長く過ごして、夜間は授乳等で疲れ切ってしまうと、うつ症状が出てきてしまうことがある。

つどいの広場の特徴はお母さんの「居場所」であるため、交流するスタッフがしっかりと話を聞くことができるように、研修や何かしら取り組みが必要だと思っている。何年前にはゲートキーパー養成講座や、重層的相談支援体制の研修を数名のスタッフが受講したと記憶している。少し期間が空いてしまっているが、研修を生かした相談体制が構築できればよいのではないかと思う。

また、広場事業は例えば親子が対象というように、対象者が限定されることが多い。その対象から外れると、その方々が次の居場所を見つける時にとっても大変な思いをされる。私自身も大人の居場所のような交流の場を作っているが、地域の民生委員や自治振興委員、まちづくり協議会が開くサロンが今年5月から開かれるようになってきた。私自身は一市民であり活動に制限がないため、知り合いをたどって自由に参加することができ、そこでの様々な出会いを通して知り合った親子や高齢者の方と関わってきた。地域の連携やネットワー

クの強みは、顔見知りになると情報交換等の様々な会話ができるところだと思っている。そういった市民同士の関わりのなかで、「こんな相談機関があるよ」というような広報的な役割が一市民だからこそできるのではないかと思う。

市民意識調査のなかにある「誰かに相談しますか」という問いに対して、誰かに相談はしているが、相談相手としてどうしても家族が多いのかなと感じている。相談機関へは何回くらい赴いたのだろうか、1回で諦めてしまった方が結構いるのではないだろうかと思う。最初から自分の気持ちを上手く伝えることができる人は良いかもしれないが、やはり何回か関わってみないと自分の本当のしんどさを伝えることができない方もいるのではないか、もっと身近なところでいうと、子どもたちもちろんそこに当てはまると思っている。基本施策(5)の現状に「20歳未満の自殺が発生している」とあるが、この文言を現状に書かないといけなことがとても悲しく感じる。これを市民の方が読むのだと思うと、八尾市にそんな現状があるのかと、心が明るくならないなと見て感じた。一方で八尾市は地域活動が活発だと思っているため、地域活動を通して関係機関には話をしっかり聞いてくれる方がたくさんいると伝えることができたら良いのではないかと思っている。

◆会長

今のお話伺いながら、63ページ基本施策(5)関係機関の連携・ネットワークの強化というタイトルに対して、現状に書かれていることがやや関係が薄いのではないかと、読みながら気づいた。現状に書かれていることは、連携やネットワークの現状というより、自殺の現状に近いと思う。もう少しネットワークや市民の方々で取り組まれていることを現状で挙げ、動向や努力を課題として発展させていくのはいかがだろうか。事務局の見解を伺いたい。

◆事務局

基本施策(5)について、20歳未満の自殺が残念ながら発生している状況を踏まえたときに、特定の機関が単独で対応するというのではなく、幅広く様々な機関が関わりながら連携を取り、対応していくことを示そうと記載した経緯がある。ただ単に男性の自殺が多い、中高年層の自殺が多いという事実だけでなく、この事実を通して取り組みを発展させるために連携やネットワークが大切であると伝えたいと思っている。

◆会長

連携・ネットワークについての現状があり、それをさらに発展させるための課題という形で、文章を検討していただくということでよいか。

◆事務局

はい。

◆その他市長が適当と認める者

私は現在、南高安校区の地域包括担当で、つどいの広場で活動されている市民委員はもともと南高安校区の民生委員児童委員をされていたため、以前より交流がある。その委員が「大人の居場所」という活動をされている関係で、メッセージアプリのお友達登録をさせていただいたところ、いつでも相談してねと、とてもやさしい言葉でいつもメッセージをくださる。つまらないことや、誰にも相談できないようなことを相談できる方であり、公的な機関でなくても、相談できる場所はたくさんあるということ、ぜひつなげる支援室の方にも知っていただきたいと思った。

また、家族や学校、職場等、それぞれ色々な居場所があるようでない、今ある場所が心の安らぐ場所ではないということが一番の問題になっており、孤独、孤立をなくすことが最も大切なことなのだと、先日のつなげる支援室の研修会に参加して感じた。

そして、基本施策(1)の若い年齢層の誤答に対しては、誤った認識を単に減らすだけではなく、「俗説は誤っている」と正しく答えることができる方が増えるような取り組みが必要なのではないかと思った。

◆会長

今のお話にあった大人の居場所といった民間の取り組みについては、市が活動を応援したり、活動の存在を周知したりと、取り組みがもう少しクリアになればいいという理解でよいか。

◆その他市長が適当と認める者

はい。

◆関係行政機関の職員

私は大阪府の担当という立場から、広域の自殺対策について取り組んでいる。一つ紹介させていただくと、現在女性や子どもの自殺が増えており、大阪府の計画でもそこに強化して取り組んでいかないといけないとしている。ただ実際のところ見ると、高齢者の方、働く50代の男性の自殺も多く、すべての世代に対して自殺対策を考えていかないといけないという認識も持っている。しかし、先ほどお話があったような地域のなかで対象者と顔が見えるような関係を築き、何かをしていくということは広域ではなかなか難しいところがあると思っている。

例えば高齢者に対しては、大阪府全体の地域包括の会議や、介護支援専門員の会議でチラシを配布したり、高齢者の自殺の状況やゲートキーパーのエッセンスを伝える時間を設けることで、支援者の方に気づききっかけを持っていただく機会になると思う。そういった取組を様々な部署と連携して実施し、啓発・周知できるようにしていきたい。

今後特に力を入れないといけない分野のひとつが職域の分野だと考えており、産業保健

総合支援センターの研修にゲートキーパー研修を入れ、企業の産業医の先生や、産業保健師の方々対象に研修を実施している。また、協会けんぽの保健師の方々に情報提供したり、企業の産業保健の分野とも連携していきたいと考えている。

子どもたちに関しては、「こころの健康について考えよう！」という冊子を用いて、府教育庁担当課と連携しながら、普及啓発に取り組んでいるところである。冊子の内容としては、色々なストレスを抱えていることに気づき、自分自身でストレスマネジメントができること、リラククス法の紹介、しんどいときのSOSの出し方、友達がしんどい思いをしているときの声かけの方法等となっている。

ただ、子どもたちがしんどいと言えることも大切だが、そのあとに先生方がどう対応していくのかというところをセットで考えていかないといけないと思っている。そのため、授業を希望される学校には、若年者に特化したゲートキーパー研修を先生方に受講していただき、子どもたちのSOSが出たときにはこのように接し、こんな言葉かけをしてあげてほしいといった研修を普及させていこうと努力しているところである。

今申し上げたことはあくまで広域的な取組であり、やはり地域のなかで実際に市民と接して活動されている方々が作成する今回の計画は、市民の方に最も寄り添った計画だと感じている。私共としては、市の取り組みを支援できるような体制を作っていかなければならないと考えている。

◆会長

今お話いただいたのは、60ページ⑥働く世代に対する支援にあてはまると思われる。

また、同じく60ページに④女性に対する支援、⑤男性に対する支援とあるが、ライフステージの視点から見ると、子どもや若者、女性、男性、働く世代と出てくると、高齢者が抜けているように見えてしまうのではないかと感じた。この部分は書き方の調整をしたほうがよいかもしい。そして、女性、男性に対する支援のなかで、こころの悩みの解決に努めるだけでなく、経済生活問題や家庭問題等という現状的な困難についても、併せて記載する方が良いのではないか。

◆その他市長が適当と認める者

以前より議題として上がっている「相談窓口がなかなか認知されない」という問題については、悩みやトラブルがないときには、相談窓口へ意識は向かないだろうと思う。周知することも重要であるが、何か問題が起きたときに、参考資料4のように、自分で窓口を探すことは非常に負担が大きいので、窓口側がそれを認識した上で、どこへどうつなげていくのかを考えながら、対応できれば非常に有効であると感じた。

私は民間団体に所属しており、青少年に対しての薬物対策をどうするか、ライフスキルの問題に青少年が当たったときに先生方がどう対応していくかといったプログラムを作っている。そして、そのプログラムを教育委員会等へ利用してくださいという話もしているが、

現在学校教育の場は非常に忙しい状況になっている。先生方も大変な状況であるとは思いますが、私共のような民間団体とも連携していただければ何か変わるのではないかと感じたため、適当かどうかわかりかねるが、一つの提案として発言させていただいた。

◆会長

今お話いただいた内容は、他の委員からもあったように民間団体との連携という視点を持たれているものかと思う。民間団体との連携が計画のなかでもう少し明確になるように、文言の調整等、事務局で検討していただけたらと思う。

以上、素案全体を一章ずつ見てきたが、今回はご出席の委員全員にご発言いただき、様々なご意見を出していただいたことに感謝申し上げます。素案についていくつか文言の修正が必要な箇所があるが、本日欠席の副会長と事務局とで確認をしながら修正させていただき、この先は会長および副会長に一任という形で進めてよいか。

◆全委員

はい。

◆会長

ご了解いただけたとのことで、次に事務局からその他について説明をお願いしたい。

◆事務局

1月にパブリックコメントを実施し、次回審議会は2月6日（火）の予定。後日正式に案内を送る予定である。

5 閉会